



古文書紙上公開

飯野文書解説

猪俣金五郎

一〇 預所(承前)
預所と言ふのは、結局のところ、土地収権であつて、これを子孫に譲り渡す事が認められていた。それで飯野文書中にも、譲り状と言ふものが散見してゐる。つまり財産相繼つてゐるの懸念が、つゞいて、年若い重い病氣にかゝつた時などに、萬一の場合の用心として書き置いたものである。注意すべきは、此の事は、親の財産を長男だけが相続するのではなかつた事を示すものと言ふ事である。初代の光宗は、預所に補せら

陸奥國好島庄預所職は、御年貢を沙汰進めしめんが爲に、預け給ふ所なり。而して子息金左衛門尉光宗に譲與しんぬ。當庄内の地預所知行ある所なり。駿河五郎左衛門尉の時例に任せ、庄務せしむべきなり。御年貢に限りあれば解怠なく沙汰進めしむべきの状の如し。

頭職。陸奥國好島庄の内、飯野村、並に好島村の預所職、右件所領は、重代相傳の所なり。三郎光宗に譲り渡す所なり。萬代、兄弟の中に遺傳あるべからず。よつて譲状の如し。

任此狀可令領筆之由依仰下知如件
(此の狀に任せ領筆せしむべき由、仰せに依つて下知件の如し)
(幕府に提出して承認保證を求めたものであらう。従つて、相模守は、時の執權北條守時だと思はれる。預所については一先づこれを置いて、又折々に述べる事とする。

時的话题 嫁入り 五十錢札

一時なりをすすめたい
た五十錢札
た日銀お嫁
入りお嫁
たお嫁
たお嫁
たお嫁

百田札
筆頭に十
円、五円、一円、五十錢、
十錢、五錢といふ發行され
てゐるお札は七種類だが、そ
のうちの政府發行紙幣となつ
てゐるのが五十錢札で他は
全部日銀券、どうして五十
錢札だけが優子扱いになつ
てゐるのかといへば臨時通
貨法第二條「臨時補助紙幣
の種類は十錢五錢お札の一
錢の三種とす」五錢「政府
は必要あるときは臨時補助
貨のほか五十錢の小額紙幣
を發行することを每一條文
に基いたもの、
現在發行されてゐる五十錢
札は大體十種田島當でこ
れを回収するため八月十五
日から黄銅貨を發行したが
これだけで五十錢札を回
收するにはむづかしいので
新しい五十錢札の登
場も豫想されてゐるお札か
らの機会に日銀券へ全編
替へられたらどの話か出
たわけ、さて一円、五円、
十円、百円の大しうとから
十錢、五錢の小しうとが控
へてゐる日銀へのお嫁入り

食糧調整委員
神谷村 志賀平保 木村
光平 中野一家 須藤一郎
木村幸雄 志賀傳吉 佐藤
徳太郎 澤田宗一 鈴木弘
鈴木良作 志賀泰太郎 中
野萬壽 金成勲 山野野重
文 中根重雄
赤井村 大平照一 鈴木
保 草野忠哉 松本忠夫
松崎一記 佐藤三郎 佐
藤力彌 鈴木利明 猪狩一
治 渡邊伊佐雄 鎌倉折理
岡田秋忠 根本茂男 羽賀
新 鈴木和光
夏井村 酒井一郎 志賀
長重 稲崎清 大和田眞
渡邊政好 岡部太 岡部義
長 岡部安清 矢吹朝光
鈴木正義 船尾作右衛門
坂本行義 坂本重長 宿屋
延 坂本孝敏
四倉町 高木林平 岡田
勝男 賀澤太郎 坂本一信
根本栄吉 羽賀又次郎 作
山安三郎 高崎義男 若松
武太郎 山田政孝 片寄重
之吉 古市源吉 片寄一重
矢内繁一 藤岡義明 和田
文夫 大谷武平 大谷吉重

計理士・税務代理士
桑原トオル
電話(平)86

魚店再投票
市では鮮魚、鹽干物等鮮魚店
の投票に準備したものが無効
なと食配給が受けられないこ
と及び落選店舗への投票の鮮魚
と異なるから注意してほしい
五八八票と鹽干物六三三票に
対して去る六日再投票せしめた
が、その結果鮮魚は百六十八
票、鹽干物は五百八十八票の投票
をみた、鮮魚の投票が少いが
これは毎日一票、一票と投票
して來るので今後もあるもの
とみられてゐる、なお投票を
の投票に準備したものが無効
なと食配給が受けられないこ
と及び落選店舗への投票の鮮魚
と異なるから注意してほしい
五八八票と鹽干物六三三票に
対して去る六日再投票せしめた
が、その結果鮮魚は百六十八
票、鹽干物は五百八十八票の投票
をみた、鮮魚の投票が少いが
これは毎日一票、一票と投票
して來るので今後もあるもの
とみられてゐる、なお投票を

ベアリングの店
各種ベアリング在庫豊富
乞御照會
平市田町三六
赤塚運兒營業所
ベアリング部電一九一番

家庭醫藥品の御用は
阿康
町番 市4
電話四六・三八一・七九四

衣料品登録のお願い
戦時中輸制の名のもとに民衆に非難の一部に依り、洋
品業協会のやむなきに迫りましたが、この國民主々義の
つとめとして依り登録を行ひ、洋品業を認むることに
なりました。ついでに協会の悲しみに御同情下され何卒御投票
下さるようお願い致します。
(現在在員、風船加工、生糸製造に着手致しましたから
自由貿易再興自由協会の職は製造品を通じて市民の協力で
出來得る限りのサービスを致す覚悟で御座います)
平市田町中央通
マサゴヤ商店
猪狩 四郎
電話四六・三八一・七九四